

相談室職員のある1日…

相談室の1日は8:30に鳴る相談電話から始まる。RRR…「はい、相談電話です。」と、同時に他の電話の呼びベルが次から次へと部屋に鳴り響く。入院児のご家族や関係機関、病棟…。これが、相談室のごく日常的な朝の風景である。

各職員が対応に追われ、一段落ついて席に戻ると、外来から新規患者さんがおみえになったと連絡が入り予診をとる。その後、病棟にてケース会議。退院予定児の学校引継ぎ会をすることが決まった。さっそく原籍校と分校に連絡をし、日程調整を行った。担任の先生とは入院直後の学校引継ぎ会・原籍校との交流会でもお会いしていた為、調整もスムーズに行えた。そこへ今日入院予定のご両親がおみえになった。入院説明と病棟を案内させていただき、入院手続きを行なった。

午後からは、先月入院した児童の家庭訪問と学校訪問の予定。円滑な治療・家族の不安軽減を図るためである。準備をしていたところに相談電話が鳴り響いた。RRR…「はい、相談電話です」



電話相談・メール相談

☆相談電話専用番号☆

059-235-5556

平日 8:30~12:00 / 13:00~17:00

☆メール相談☆

アドレス asunaro@gaea.ocn.ne.jp

新任医師のご紹介

桐山正成医師



初めまして、今年の6月よりあすなる学園に勤務しています桐山正成と申します。出身は大阪で、大学は岡山の川崎医大でした。学生時代は倉敷の方で生活しておりました。

平成11年に大学を卒業し、その後母校の精神科で研修を受けました。あすなるに来る前は、新潟県上越地方の精神科病院にいました。その病院は戦前（大正時代）からある病院で、姉妹病院も同様に歴史が古い（明治時代から）病院であり、精神科領域では地域の中核でもありました。しかしながら、上越地方には全体的に医者が少なく、更に精神科医は少ない状態で、その結果、多忙な日々を過ごしました。外来では、思春期から老人までと色々な患者さんが通院していました。入院患者は16歳以上で、病棟によって急性期病棟・慢性期の病棟・自閉症や発達遅滞の方がほとんどを占める病棟・老人病棟など、病棟毎に特色があり、治療に関わることができました。また、色々な精神科医療についても考えさせられました。自分の中で、児童・思春期の方はどうなっているのだろうか？また、より早く治療に関わっていたら？という疑問がでてきました。大学で研修を受けていた時、教授（青木省三先生）の影響もあり思春期に興味がありましたが、それがより自分の中で大きくなり、今回あすなる学園で勉強させていただいている所存であります。

どうぞよろしくお願いたします。